

# 立教大学の傾向と対策

## ★出題パフォーマンス（種類・形式・分野）★

### ① 学部別傾向

全学部受験が4日間、文学部のみ個別受験が2月11日の1日の5種類の問題が作成されます。2020年入試までと同様に、その日程別に全く傾向はないと考えてよいでしょう。つまり、過去問を演習するときに、自分が受験する日の過去問だけをやっても効果はないということです。ただ、〈学部別のナショナリズムデータ〉を見れば分かる通り、日程によっては繰り返し又は隔年で出題される单元もあるので注意は必要。（2月11日の文学部の試験に関しては、〈文学部〉と銘打つての試験であるため、文化史を多く出題してくる可能性は否定できないので加筆しておきます）。

### ② 年度別傾向

ここ数年、同年6種類（2020年入試まで）の入試問題に類似单元や分野、同じ单元からの違う問題など、〈年度別流行〉は立教対策の最大のカギになっています。2021年入試から、同じ学部を何度も受験できるシステムになったため、何度も受験すると有利になるでしょう。2～3割の出題单元・分野が〈流行单元・分野〉からの出題なので無視できません。

### ③ 問題数と出題範囲

大問は2つ、小問で35～38問程度（他大学は50～60問）なので、1問が2点以上（100点満点に換算して…）と1問の重要性がかなり高いです。大問で西洋史・東洋史に分けられているのではなく、全問にばらついているので、結局、西洋・東洋とも同じ割合で出題されています。

### ④ 出題形式

記述：記号選択＝ほぼ1：1。記述でやや難なモノは文化史からの出題がほとんど。記号選択は、文章四択、組み合わせ正誤、人物業績選択、年代正順などが中心。「この時期の出来事…」系の年代問題はかなり厄介で正答率は低いが、出ても1問と考えてよいでしょう。

### ⑤ 用語のlevel

頻度4以上（センターレベル）が約80%、頻度1～3が約20%。→基礎～標準知力だけで立教大学の平均合格ライン72%を越えるので、他教科で稼ぐか世界史で稼ぐかを決めることが重要です。

## ★傾向から読む絶対対策★

### ① 学部別配点（重要度が高い順）

\*英語は英語資格・検定試験又は大学入学共通テスト採用（\*2/11文学部除く）

文学部（史学科）	英200	国200	世200	…	同配点
社会学部	英100	国100	世100	…	同配点
経営学部	英150	国100	世100	…	全体の28.6%
異文化コミュ学部・文学部（史以外）・観光学部	英200	国200	世150	…	全体の27.2%
経済学部・現代心理学部	英150	国150	世100	…	全体の25.0%
法学部・コミュニティ福祉学部	英200	国200	世100	…	全体の20.0%

### ② スライド出題が基本 \*過去3年間の他日程の問題をチェック

- 同じ用語は出ないが、同じ单元や分野・テーマまたは類似したリード文（違う用語を出題）は繰り返し出るので、具体的な出題を確認すべし
- 例外は少しあるが、過去6年間で同じものが出題されるのは稀、よって、他学部の問題でまだ受験する学部に出題されていないモノを探し出せば命中！

### ③ テーマ史について

〈立教大学6か年データ〉の一覧表を見ても分かるように、大問はテーマ史です。各国史（イギリス史など）・地域史（イベリア半島史など）は勿論、定番のテーマ史（医学史・文字史・奴隸史・遊牧民族史など）は他日程または併願する他大学のテーマ史から演習慣れをしておく必要があります。その中で、特殊テーマ的な話題（オリンピック史・万国博覧会史・名言特集など）は、その知力を学ぶことは困難なので、通史レベルで対応できれば十分得点できる設問になっています。

### ④ 正誤問題について

オーソドックスな四文選択問題ですが、日程によっては全体の3割を占める<sup>2</sup>ときがありますので、軽んじることはできません。正誤対策は徹底させましょう。

### ⑤ 年代問題について

どの日程でも1割近く（3～4問程度）は必ず出題されます。戦争（戦い）と条約・法制・反

乱（内乱）・革命などの有名事件，王朝の変わり目，有名国王・皇帝の即位年などは単語カードでコツコツ暗記しておきたい。事件の流れや主体の動向などの並べ替えはやや難問として出題されます。

## ⑥ 地図や資料の出題について

都市や地形や国の位置（地図は頻出ではないが，知らないと解けない）・文化関連の写真は必須。地理的要素があれば必ず資料集でチェックを，絵画・写真などがあれば必ず内容を確認することを肝に銘じて欲しいです。地図は〈都市〉〈川〉〈半島〉が狙われやすいです。

## ⑦ 問題内容の狙いについて

### 【中国史】

その中国王朝の周辺民族や周辺国家（北方民族・チベット・台湾・朝鮮・東南アジアなど）に注意を払って暗記する。地図で出題されることもあります。朝鮮半島や東南アジアは毎年出題有り。

### 【戦後史】

テーマ史的な出題が中心となるため，〈戦後史〉とされる部分は，大問の最後の部分と考えてよいでしょう。つまり，平均5～10%（2～4問）は出題されているが，日程によっては，まったく出題されないときもあるので，出なければそれはそれでluckyと思えばよいと思います。内容的には，有名人物・有名事件が中心だが，年代を知らないと答えられない問題は決まってハイレベルが多いです。盲点となる国際組織・国際経済・核や環境問題などが好んで出題されるので注意しましょう。

### 【文化史】

大問が文化史でなくとも必ず小問で登場する上に，必ずどの日程においても，3問以上（8%以上）は出題されるので，逃げるできない分野です。基本は一問一答や同時代選択や人物・業績の組み合わせだが，記述させられることが多いので，書いて覚える必要がある。西洋文化史の出題率が高く，その中では，〈ルネサンス〉～〈19世紀の文化〉は狙われやすいでしょう。

### 【全体的に】

キリスト教・イスラーム王朝・アメリカ史・イギリス史・東西交流（ヒトとモノの移動）関連のテーマなどは頻出です。前述関連の用語は，決して苦手にならないように最終チェックを怠らないようにしましょう。